

Title	編輯便り
Author(s)	
Citation	地球 (1924), 2(3): 467-467
Issue Date	1924-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/182735
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

編輯便り

□地球學國員活躍の夏期休暇が來て編輯同人は日本内地は勿論支那や朝鮮の内部に研鑽旅行に立つて行きました。從て「地球」誌の編輯にはいつも違つた苦心がないではありませんでした。然し研究記事に富んだ九月號を出せたことは喜んで頂きたいことであります。

□同人活動の片影を舉げて見ます。其の研究の結果が近く本誌に公にされるのを樂しみに待つて頂きたいのです。

小川教授石川講師は鳥取縣下の數多き温泉の調査に従はれました。小川先生の御抱負に據りまする温泉湧出の地質によつて日本に於ける千有餘の温泉を分類されたいと云はれて居ります。それは鳥取縣下の温泉地の地質が一様でないことから考へられた所であります。

中村教授は朝鮮江原道の山地の寒武利亞—奥陶紀層の層序研究なされて立派で大きな奥陶紀の三葉虫や腕足介を採集されたと同時に朝鮮では最初の上寒武利亞紀の三葉虫(チュアンギン)を發見されたさうで北支那から朝鮮に亘る寒武利亞層の沈積の状態を明にする曙光を認めて喜んでゐられます。

松山教授は本秋スペインで開かれる萬國測地學會へ列席されるべく、多くの業績を携へて八月三日に神戸を立たれました。

横山助教授と黒田徳米君は上總の近生代層や、戸塚四近の鮮新層を見る爲めに出張されましたが、南總の化石産地では數多

の貴重な材料を採集され且つ兩總地方の地體構造及地貌に關して新しい見界を獲られたといふ御話であります。猶ほ横山君は遠江掛川地方の第三紀層層序研究の終末を附けらるべく同地方を歩かれて掛川層とそれよりの下位にある堀ノ内層との層位關係を明瞭にされました。黒田君は又豊橋の北東石巻山の古生代石灰岩地で同君専門の日本産陸棲貝に二種の新種を加へられたさうであります。

本間助教授は學生を指導して富士の北麓の御坂四近を歩かれて尋で丹澤山塊の閃綠岩噴起の狀態を明かにされました。猶ほ八月に這入つてからは豆南諸島の地質研究に従はれて八丈、小笠原及中硫黃島に渡られて中硫黃島の一年に二尺宛も隆起し行きつゝあることを觀察されました。

上河講師と熊谷助手とは相摸、安房、上總等の震災地の重力測定に従事されて震災地に於ける地球物理學的研究の第一步を踏み出されました。

藤田元春君は支那黄河の變遷に關する多年の机上の研究を完成せんが爲めに直隸及山東兩省を跋渉されることになつて八月上旬京都を立たれて現に旅行中であります。

□直接地球編纂にたづさはつてならない學國員の多數も種々の研究旅行を行はれましたが、地方の學國員方の本夏の御活動の結果を得まして本秋以後の「地球」を飾りたいと存じます。就いては齎つて諸賢の御業績を本誌で公表する榮を得たいものであります。